

あしよろ・ハードサポート通信

足寄の皆様、こんにちは。ハードサポート株式会社の市川雷太です。

6月は肌寒い日もありましたが、1番牧草の収穫もスタートし、これから夏本番を迎えます。今後は環境性の原因菌による乳房炎が増えやすい時期にもなります。

◆ バルク乳スクリーニング検査とは？

バルク乳に含まれる細菌の数と種類を毎月確認できるのがバルク乳スクリーニング検査で、右表は架空の「A牧場」での年間の推移を示しています。この検査からは、搾乳衛生状況や潜在性乳房炎の原因菌を確認でき、乳質改善への情報が得られますが、個体ごとの状況までは把握できないため、異常乳を発見した際には都度PLテストや原因菌の特定を行う必要があります。

| | 黄色ブドウ球菌 SA | 無乳レンサ球菌 SAG | 環境性ブドウ球菌 CNS | 環境性レンサ球菌 OS | 大腸菌群 CO |
|-----|---------------|----------------|-----------------|----------------|------------|
| 1月 | 0 | 0 | 230 | 580 | 0 |
| 2月 | 0 | 0 | 180 | 580 | 750 |
| 3月 | 0 | 0 | 220 | 640 | 0 |
| 4月 | 0 | 0 | 110 | 1,800 | 0 |
| 5月 | 0 | 0 | 270 | 1,300 | 0 |
| 6月 | 0 | 0 | 600 | 140 | 20 |
| 7月 | 0 | 0 | 1,500 | 180 | 80 |
| 8月 | 0 | 0 | 1,200 | 140 | 50 |
| 9月 | 50 | 0 | 350 | 380 | 10 |
| 10月 | 180 | 0 | 240 | 300 | 0 |
| 11月 | 240 | 0 | 130 | 500 | 10 |
| 12月 | 350 | 0 | 120 | 350 | 0 |
| 目標 | 0 | 0 | < 300 | < 700 | < 100 |

◆ バルク乳スクリーニング検査で検出される乳房炎原因菌

○黄色ブドウ球菌（SA）

バルク乳から検出された場合は牛群にSA感染牛がいることを疑います。A牧場では秋にSAが検出されて以降、徐々に数値が増えており、感染牛が増えているのかもしれませんが、SAは伝染性の原因菌で慢性や難治性の乳房炎を引き起こすので、検出後は迅速に処置を行いましょう。

○無乳レンサ球菌（SAG）

強い伝染性を持つ乳房炎原因菌ですが、足寄町内では検出されていません。

○環境性ブドウ球菌（CNS）

飼養環境の他、乳頭表面にも常在しています。A牧場では6-8月に多く検出されており、この時期の乳頭清拭に問題があった恐れがあります。CNSは慢性の乳房炎へ移行する可能性もあるので、注意が必要です。



○環境性レンサ球菌（OS）

環境性の乳房炎原因菌で、麦稈に多く生息しています。OSには様々な種類があり、難治性の乳房炎を引き起こすものもあります。排菌数が非常に多いので、最近では伝染性の原因菌と同じ対策をした方が良くとされています。A牧場では、4-5月に多く検出されていますが、その以外の月ではうまくコントロールできています。

○大腸菌群（CO）

バルク乳からCOが検出された場合は乳房炎由来ではなく、搾乳直前で乳頭に糞などが付着していた事を示しています。A牧場では2月で突発的にCOが多く検出されていますが、牛床衛生や乳頭清拭が不十分であった事が考えられます。



※グラム陰性カン菌について

バルク乳スクリーニング検査の備考欄に「グラム陰性カン菌」と記載される事があります。この場合は搾乳機器の洗浄不良が疑われますので、洗浄システムが適切に稼働しているかを確認してください。

◆ 毎月のモニタリング継続が重要

分娩や乾乳、搾乳者の変更、季節、環境など、農場では日々状況が変化していきます。そのため1回のバルク乳スクリーニング検査だけでは正確な情報をつかみにくいので、継続してのモニタリングが重要になります。

バルク乳スクリーニング検査で検出される原因菌の傾向は農場によって異なるため、乳質にお悩みの方は、まず過去1年間の検査結果を確認してみる事をおすすめします。

必要に応じて、検査結果推移のまとめや解析も行っていますので、ご遠慮なくお問い合わせください。
(市川雷太)



.....
・7/10(火)に第2回酪農女性勉強会を農協2階で開催予定です。今回のテーマは乳房炎の予定です。詳細は後日FAXにてご案内します。